

2009 年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」の概要

3 年次調査

- 調査対象者 学部 2007 年度生全員。
- 調査方法 2009 年度秋学期成績通知書交付時に調査票を配布し、その場で学生に回答してもらい回収した。
- 回収状況 有効回収数は 3891 票であり、3 月 31 日時点での在籍者数に対する回収率は 70.2%であった。

学部別回収状況（3 年次調査）

	有効票数	在学者数	回収率 (%)
神学部	54	62	87.1
文学部	439	746	58.8
社会学部	383	433	88.5
法学部	476	839	56.7
経済学部	555	969	57.3
商学部	724	853	84.9
政策学部	262	408	64.2
文化情報学部	182	264	68.9
工学部	744	968	76.9
不明	72	-	
合計	3891	5542	70.2

2009 年度 キャンパスライフに関するアンケート調査(2007 年度生用)

アンケートご協力をお願い

同志社大学教育開発センターでは、より良い教育プログラムの開発を目的として、みなさんが本学の教育に対してどのように感じておられるかを把握するため、調査を実施しています。回答いただいた内容は、すべて数値に置き換えられ統計的に処理されますので、みなさんの回答が他の人に知られることは絶対にありません。また、調査結果が本学の教育改善以外の目的に使用されることもありません。本学の教育に対するみなさんの意見を知らるための貴重な資料となりますので、ご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

- 回答の仕方は、質問文の指示にしたがってください。
- ほとんどの質問は、あてはまる番号に○をつけてお答えください。
- いくつかの質問には、数値や文字を記入してください。
- 回答したくない質問には、無理に答えていただくなくて結構です。
- 質問は全部で 27 問あります。10分程度で回答できる内容ですから、アンケート用紙を受け取られたら、すぐに回答していただき、所定のアンケート回収箱に入れてください。

同志社大学教育開発センター

E-mail: ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp

TEL: 075-251-3277

1. あなたが所属している学部・学科について、あてはまる番号に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|------------------|----------------------|
| 1. 神学部神学科 | 10. 社会学部メディア学科 | 19. 工学部インテリジェント情報工学科 |
| 2. 文学部英文学科 | 11. 社会学部産業関係学科 | 20. 工学部情報システムデザイン学科 |
| 3. 文学部哲学科 | 12. 社会学部教育文化学科 | 21. 工学部電気工学科 |
| 4. 文学部心理学科 | 13. 法学部法律学科 | 22. 工学部電子工学科 |
| 5. 文学部美学芸術学科 | 14. 法学部政治学科 | 23. 工学部機械システム工学科 |
| 6. 文学部文化史学科 | 15. 経済学部経済学科 | 24. 工学部エネルギー機械工学科 |
| 7. 文学部国文学科 | 16. 商学部商学科 | 25. 工学部機能分子工学科 |
| 8. 社会学部社会学科 | 17. 政策学部政策学科 | 26. 工学部物質化学工学科 |
| 9. 社会学部社会福祉学科 | 18. 文化情報学部文化情報学科 | 27. 工学部環境システム学科 |

2. あなたの性別について、あてはまる番号に○をつけてください。

1. 男性 2. 女性

3. あなたは自宅通学ですか、自宅外通学ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自宅通学 2. 自宅外通学

4. あなたの2009年度終了時点での累積 GPA はいくらでしたか。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 1.00 ポイント未満 | 2. 1.00～1.49 ポイント | 3. 1.50～1.99 ポイント |
| 4. 2.00～2.49 ポイント | 5. 2.50～2.99 ポイント | 6. 3.00 ポイント以上 |

5. あなたの高校での成績は、学年の中で大体どのくらいでしたか。次の中から最も近いものを選んでください。

1. 上位の方 2. 中の上ぐらい 3. 中ぐらい 4. 中の下ぐらい 5. 下位の方 9. わからない

6. あなたは、どの入試を受けて本学に入学しましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1. 一般入試 | 9. 法人内諸学校等推薦入試(同志社国際高校) |
| 2. 指定校推薦入試 | 10. 法人内諸学校等推薦入試(新島学園高校) |
| 3. 推薦選抜入試(公募制) | 11. スポーツ推薦選抜入試 |
| 4. AO入試 | 12. 第2年次転入学試験、第3年次転入学試験、第3年次編入学試験 |
| 5. 大学入試センター試験を利用する入試 | 13. 社会人特別選抜入試 |
| 6. 法人内諸学校等推薦入試(同志社高校) | 14. 外国人留学生入試 |
| 7. 法人内諸学校等推薦入試(同志社香里高校) | |
| 8. 法人内諸学校等推薦入試(同志社女子高校) | |

7. 本学は、あなたが何番目に志望した大学ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 第一志望 2. 第一志望以外

8. あなたは現役ですか、浪人ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 現役 2. 一浪 3. 二浪 4. その他(留学生、社会人など)

9. あなたは次のことに対して、どのくらい満足していますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	満足	やや満足	いえない どちらとも	やや不満	不満	(履修しない) わからない
1) 英語・外国語の授業	1	2	3	4	5	9
2) 全学共通教養教育科目の授業	1	2	3	4	5	9
3) 所属学部・学科の専門の授業	1	2	3	4	5	9
4) 教室の設備環境	1	2	3	4	5	9
5) 図書館の環境や設備	1	2	3	4	5	9
6) パソコンの利用環境	1	2	3	4	5	9
7) 就職に関する情報提供や相談	1	2	3	4	5	9
8) 免許・資格課程科目(教職、学芸員、司書、司書教諭)の授業	1	2	3	4	5	9

10. あなたは、次のような力が大学入学時にどの程度身につけていたと思いますか。また、今まで本学で学生生活を経験されて、その力がさらに身についたと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	大学入学時に				現在			
	身につけていなかった	あまり身につけていなかった	やや身につけていた	身につけていた	身につけなかった	あまり身につけなかった	やや身についた	身についた
1) 一般的な教養	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 専攻分野や学科の知識	1	2	3	4	1	2	3	4
3) 自分の意見と事実を分けて書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 定められた形式に従ってレポートを書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
5) 文献や資料を読んで要点を理解する力	1	2	3	4	1	2	3	4
6) 課題を解決する力	1	2	3	4	1	2	3	4
7) ものごとの問題点を発見する力	1	2	3	4	1	2	3	4
8) プレゼンテーションの力	1	2	3	4	1	2	3	4
9) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	1	2	3	4	1	2	3	4
10) 科学的・数量的にものごとを見る力	1	2	3	4	1	2	3	4
11) ものごとに対して粘り強く取り組む力	1	2	3	4	1	2	3	4
12) 英語の能力	1	2	3	4	1	2	3	4
13) 英語以外の外国語(初修外国語)の能力	1	2	3	4	1	2	3	4
14) 異文化の人々に関する知識	1	2	3	4	1	2	3	4
15) 地域社会が直面する問題に対する理解	1	2	3	4	1	2	3	4
16) チームワーク	1	2	3	4	1	2	3	4
17) グローバル化による問題に対する理解	1	2	3	4	1	2	3	4
18) リーダーシップの能力	1	2	3	4	1	2	3	4
19) 人間関係を構築する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
20) 異文化の人々と協力する能力	1	2	3	4	1	2	3	4
21) 批判的に考える力	1	2	3	4	1	2	3	4
22) 効果的に学習する技能	1	2	3	4	1	2	3	4
23) 自ら考え行動する力	1	2	3	4	1	2	3	4
24) キリスト教精神	1	2	3	4	1	2	3	4
25) 日本文化に関する知識	1	2	3	4	1	2	3	4
26) コミュニケーション能力	1	2	3	4	1	2	3	4

11. あなたは、本学の授業で次のような科目を履修しましたか。あてはまる番号にすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| 1. 同志社科目(建学の精神や理念にふれる科目) | 6. 免許・資格課程科目(教職、学芸員、司書、司書教諭) |
| 2. 教養演習科目 | 7. 体育実技(スポーツパフォーマンス) |
| 3. 学際科目 | 8. AKP 同志社留学生センター開設科目 |
| 4. プロジェクト科目 | 9. キャリア形成支援科目 |
| 5. 初年次教育科目(少人数制で主に大学での学習方法について学ぶ科目) | 10. 国際教養科目 |

12. あなたは本学の授業に対して、どのように取り組んでいますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	全くしない	あまりしない	たまにする	よくする
1) 教員が黒板に書かなかったことでもノートを取る	1	2	3	4
2) 授業内容について教員に質問をする	1	2	3	4
3) 授業で出された課題はきちんと提出する	1	2	3	4
4) 授業内容について他の学生と議論する	1	2	3	4
5) 試験の前に時間をかけて勉強をする	1	2	3	4
6) 授業の予習や復習をする	1	2	3	4
7) 授業に遅刻や欠席をする	1	2	3	4
8) 欠席した授業の内容はすぐに補う	1	2	3	4
9) 授業を他の活動より優先する	1	2	3	4
10) 授業をつまらなく感じる	1	2	3	4
11) 業者の講義ノートを購入する	1	2	3	4

13. あなたがこれまでに受講した授業で、以下の授業形態・方法が取られたものがありましたか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	全くなかった	あまりなかった	時々あった	よくあった
1) 出欠の確認	1	2	3	4
2) ディスカッション	1	2	3	4
3) 学生によるプレゼンテーション	1	2	3	4
4) SA やTA(上級生や大学院生の補助)による助言	1	2	3	4
5) グループでの作業や活動	1	2	3	4
6) 定期的な習熟度チェック小テスト	1	2	3	4
7) 定期的な課題提出	1	2	3	4
8) 課題提出物の添削と返却	1	2	3	4
9) フィールド・ワーク	1	2	3	4
10) 体験学習	1	2	3	4
11) 実習・実験	1	2	3	4

14. あなたは、大学入学後につきのような経験をしたことがありますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	経験したことがある	経験したことがない
1) 語学研修プログラムへの参加	1	2
2) 正規交換留学生として留学	1	2
3) 私費留学生として留学	1	2

15. あなたにとって、本学の授業は次の項目に対してどの程度役に立ちましたか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	やや役に立った	役に立った
1) 大学生活での目的や目標の設定	1	2	3	4
2) 学問に対する動機づけ	1	2	3	4
3) 職業や進路選択の方向づけ	1	2	3	4
4) 探究心を持つこと	1	2	3	4
5) 社会問題への関心を持つこと	1	2	3	4
6) 多様なものの見方に触れること	1	2	3	4
7) 批判的精神を持つこと	1	2	3	4
8) 一般常識を身につけること	1	2	3	4
9) 協調性を持つこと	1	2	3	4
10) 大学生であるという自覚を持つこと	1	2	3	4
11) 愛校精神を持つこと	1	2	3	4
12) 自分に自信や肯定感を持つこと	1	2	3	4
13) リーダーシップを発揮すること	1	2	3	4
14) 国際的視野の獲得	1	2	3	4

16. あなたは、本学の教育全般に満足していますか、それとも不満ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1	2	3	4	5
満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である

17. あなたは、大学生活のなかで、次のことに対してどのように感じていますか。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1) 同じ学部・学科の友人がいる	1	2	3	4
2) 他の大学に通う友人がいる	1	2	3	4
3) 大学の教員と交流がある	1	2	3	4
4) 大学の一員だと感じる	1	2	3	4
5) 大学は気おくれして居心地が悪い	1	2	3	4
6) 大学はいつも退屈だ	1	2	3	4
7) 大学では毎日新しい発見がある	1	2	3	4

18. あなたは授業期間中、通常1週間に約何時間、授業中以外に学習活動(勉強、文章作成、読書、実験、リハーサル等)を行いましたか。まったく学習しなかった場合は、0(ゼロ)と記入してください。

--

時間 くらい

19. あなたは授業期間中に、通常1週間に約何時間、仕事またはアルバイトを行いましたか。アルバイトをまったくしなかった場合は、0(ゼロ)と記入してください。

--

時間 くらい

20. あなたは、最近3ヶ月で何冊くらい授業とは関係のない読書(漫画、趣味・娯楽雑誌を除く)をしましたか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 0冊 2. 1冊 3. 2冊 4. 3冊 5. 4冊 6. 5冊以上

21. あなたの大学入学後の学習・生活習慣について、あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	し な か っ た	あ ま り し な か っ た	た ま に し た	日 常 的 に し た
1) 図書館を利用する	1	2	3	4
2) 教科書以外の文献を読む	1	2	3	4
3) 新聞の政治面、経済面、国際面等を読む	1	2	3	4
4) 新聞、インターネット等で英文記事を読む	1	2	3	4
5) 日本語以外で会話する	1	2	3	4
6) スケジュールの管理をする	1	2	3	4
7) 学習の計画を立てる	1	2	3	4
8) インターネットで情報を収集する	1	2	3	4
9) パソコンを使って文書や資料を作成する	1	2	3	4
10) ボランティア活動をする	1	2	3	4
11) クラブ・サークル活動を行う	1	2	3	4
12) 学生同士の研究会に参加する	1	2	3	4
13) 新島襄や建学の精神にふれる大学の行事に参加する	1	2	3	4
14) 学生支援センターのイベントに参加する	1	2	3	4
15) 専門学校に通う	1	2	3	4

22. あなたは、大学での学習についてどのように考えていますか。次のような意見について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれ1つ選び、○をつけてください。

	そう 思わない	あまり 思わ ない そう	やや そう 思っ つ	そう 思っ つ
1) 大学で学ぶことは楽しい	1	2	3	4
2) 大学で学ぶこと自体に価値がある	1	2	3	4
3) 大学でよい成績をとることは重要だ	1	2	3	4
4) 大学で身につけた知識やスキルが将来の職業生活に役立つ	1	2	3	4
5) 大学を卒業すれば、よりよい条件の職業につくことができる	1	2	3	4
6) 大学で何を学んだかは就職活動の結果に関係がない	1	2	3	4

23. あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|----------------|--------------|------------|
| 1. 就職する | 2. 大学院に進学する | 3. 留学する |
| 4. 他大学に(編)入学する | 5. 専門学校に入学する | 6. まだわからない |
| 7. その他(具体的に) | | |

24. あなたが仕事や就職先を選ぶ際に、次のことはどのくらい重要ですが。あてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	重 要 で な い	あ ま り 重 要 で な い	あ る	や や 重 要 で あ る	重 要 で あ る
1) 大学で学んだことが生かせること	1	2	3	4	
2) 自分の興味や関心に合っていること	1	2	3	4	
3) 失業の恐れがないこと	1	2	3	4	
4) 高い収入が得られること	1	2	3	4	
5) 社会に貢献すること	1	2	3	4	

25. あなたは、希望する進路のためにどのような次のような活動を行いましたか。以下の項目にあてはまる番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

	行った	行っていない
1) 専門学校に通う	1	2
2) 進路に関連のある授業を履修する	1	2
3) 目標とする職種に近いアルバイトをする	1	2
4) インターンシップ	1	2
5) 進路に関連する文献・雑誌記事を読む	1	2
6) クラブやサークルの先輩または OB・OG に仕事の話を聞く	1	2
7) キャリアセンターに行って相談を受ける	1	2
8) 教員に相談する	1	2
9) 語学検定試験や資格試験を受ける	1	2

26. あなたが働くこと(希望する進路)について真剣に考え始めたのはいつごろでしたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|-------------|------------------|
| 1. 大学入学前 | 4. 大学3年生の4月から9月 |
| 2. 大学1年生のとき | 5. 大学3年生の10月から3月 |
| 3. 大学2年生のとき | 6. まだ考えていない |

27. あなたが将来めざす進路にはどのような能力が必要だと思いますか。A群より、もっとも必要だと考えるものから順に3つ答えて選択肢の番号を記入してください。また、その能力は大学生活のどの場面で得られると考えていますか。最初に選んだA群の項目に対応するものをB群から1つ選択して番号を記入してください。

順位	能力(A群から1つ選択)	場面(B群から1つ選択)
1		
2		
3		

A群

- | | | |
|--------------|---------------|-----------------|
| 1. 一般的な教養 | 5. チームワーク | 9. 人間関係を構築する能力 |
| 2. 専門分野の知識 | 6. 粘り強く取り組む力 | 10. 批判的に考える力 |
| 3. 課題を解決する力 | 7. 英語の能力 | 11. 自ら考え行動する力 |
| 4. 問題点を発見する力 | 8. リーダーシップの能力 | 12. コミュニケーション能力 |

B群

- | | | |
|------------------------|-----------------|---------------------|
| 1. 大学の授業(教養科目) | 5. 海外語学研修のプログラム | 9. ボランティア活動 |
| 2. 大学の授業(専門科目) | 6. 留学 | 10. 就職活動時 |
| 3. 大学の授業(ゼミ・卒業論文・卒業研究) | 7. クラブ・サークル活動 | 11. 大学生活ではあまり身につかない |
| 4. 大学の授業(外国語教育科目) | 8. アルバイト | 12. その他() |

本学の教育について意見があれば、自由に記入してください。

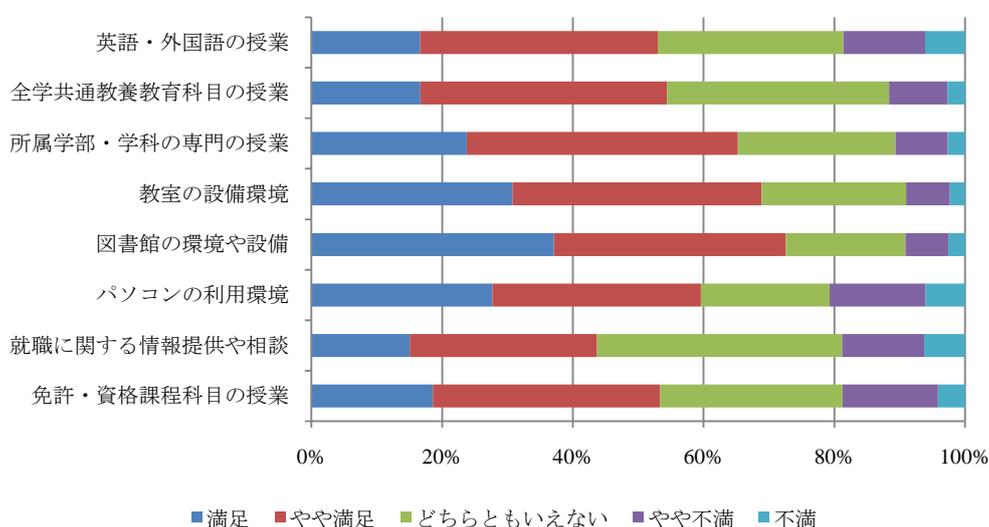
ご協力ありがとうございました。

※本アンケート調査項目の利用を希望される場合は、同志社大学教育開発センター(ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp)までご連絡ください。

Q9. あなたは次のことに対して、どのくらい満足していますか。

Q9では、各系統の授業や大学の教育環境など、領域ごとの満足度を答えてもらっている。これを集計したもの図1である。全体の傾向を見ると、「図書館の環境や設備」に対する満足度が相対的に高いこと、「就職に対する情報提供や相談」については、満足度が低いことなどが確かめられる。就職状況が厳しくなる中で、学生の要求水準は高まるが、それと実際の情報提供や相談の間の齟齬が大きいということかもしれない。また、授業に関していえば、「所属学部・学科の専門の授業」の満足度が、「英語・外国語の授業」「全学共通教養教育科目」の授業よりも若干高い¹。

図1 各領域に対する満足度 (Q9)



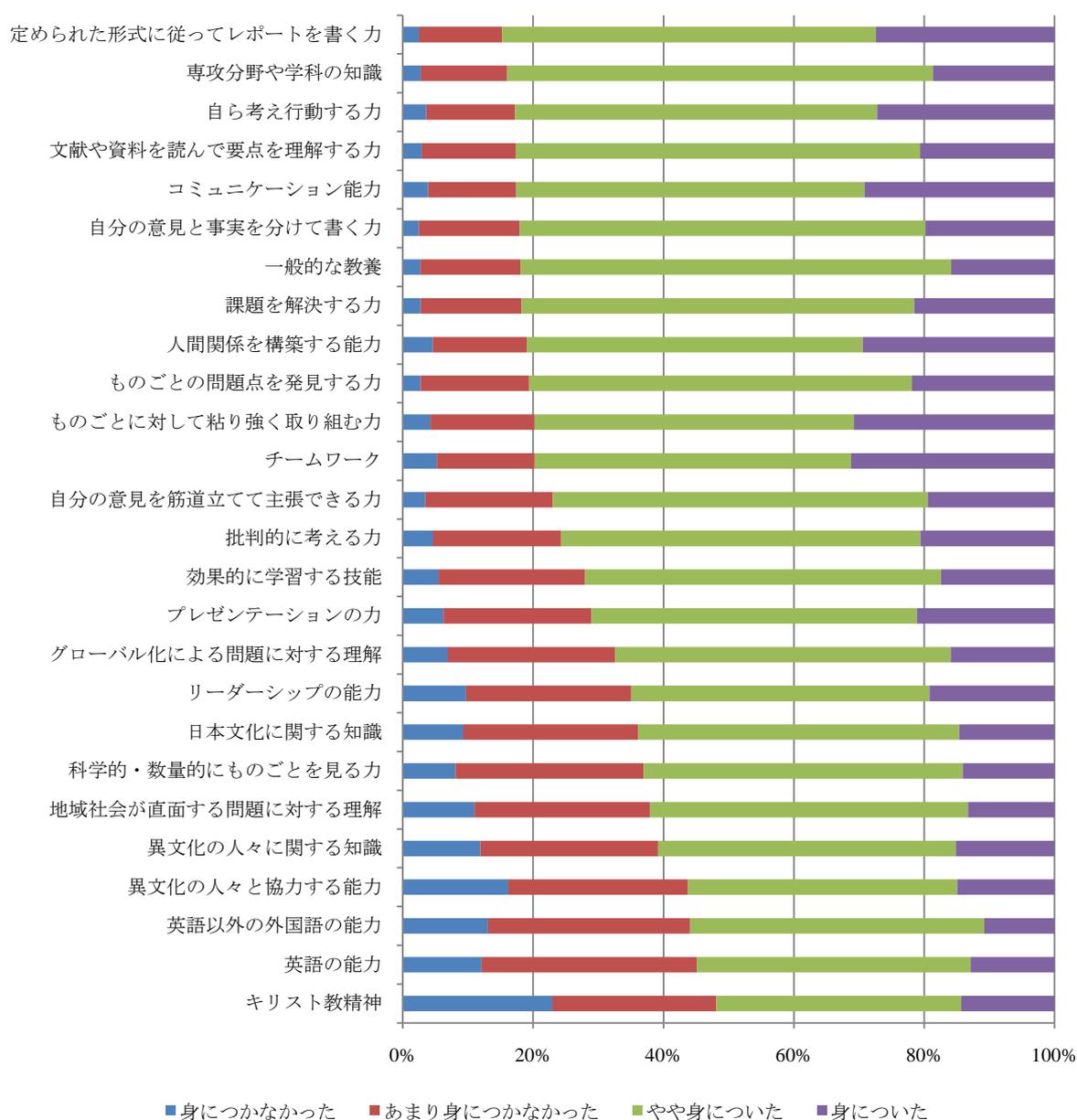
Q10. あなたは、次のような力が大学入学時にどの程度身についていたと思いますか。また、今まで本学で学生生活を経験されて、その力がさらに身についたと思いますか。

Q10では、学生が3年間学んでそれぞれの知識・技能が、どの程度身についたと認識しているのかを質問している。各知識・技能項目に対して、「身につかなかった」「あまり身につかなかった」「やや身についた」「身についた」の4段階の選択肢で質問しているが、図2では、身についた（「やや身についた」＋「身についた」）と回答した学生が多い順に項目を並べた。図によると、「定められた形式に従ってレポートを書く力」や「専攻分野や学科に関する知識」「自ら考え行動する力」などが上位に位置しており、こうしたスキルは多く

¹ なお、「免許・資格課程科目の授業」については、他の質問項目（Q11）と照合し、履修者のみに限定して集計している。

の学生が身についたと認識している。また、「身についた」だけに着目すれば、「ものごとに対して粘り強く取り組む力」や「チームワーク」なども相対的に多くの学生が肯定的な回答している。一方で、「異文化の人々と協力する能力」「英語以外の外国語の能力」「英語の能力」や「キリスト教精神」は身についたと回答した学生とそうでない学生がおおよそ半数ずつに分かれている。これらの知識・技能は身についたと認識する割合が相対的に低い。が、大学生活で実際に「異文化の人々と協力する」場面がないことや、語学力の獲得は非常に困難であることを示している。

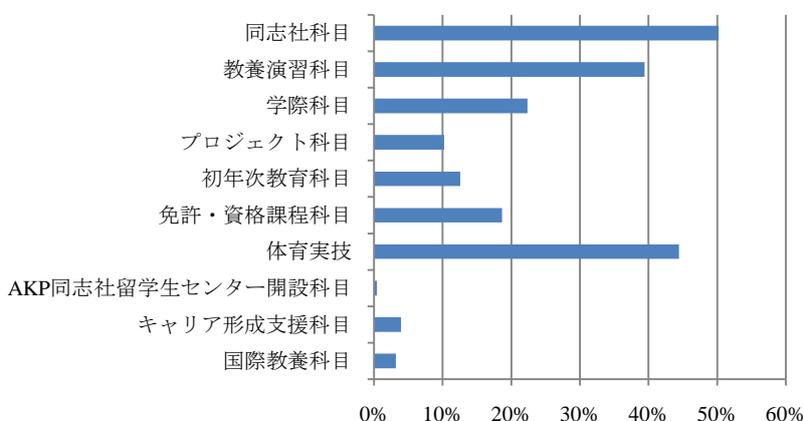
図2 知識・技能の獲得状況「現在」(Q10)



Q11. あなたは、本学の授業で次のような科目を履修しましたか。

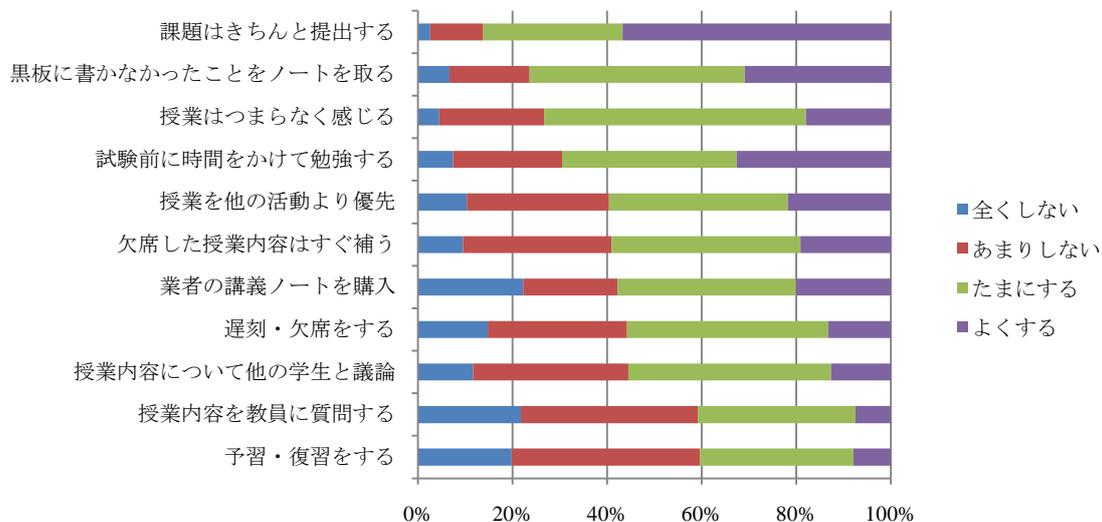
図3には学生の授業履修の状況を示している。Q11では特徴的な授業の履修状況について質問しているが、例えば、本学の建学の精神・理念に関する「同志社科目」はおよそ半数の学生が受講したことが分かる。ただし、実際には図で挙げたような科目を履修しているにもかかわらず、回答しなかったケースも多いものと推測される。

図3 授業の履修状況 (Q11)



Q12. あなたは本学の授業に対して、どのように取り組んでいますか。

図4 授業に対する取り組み (Q12)

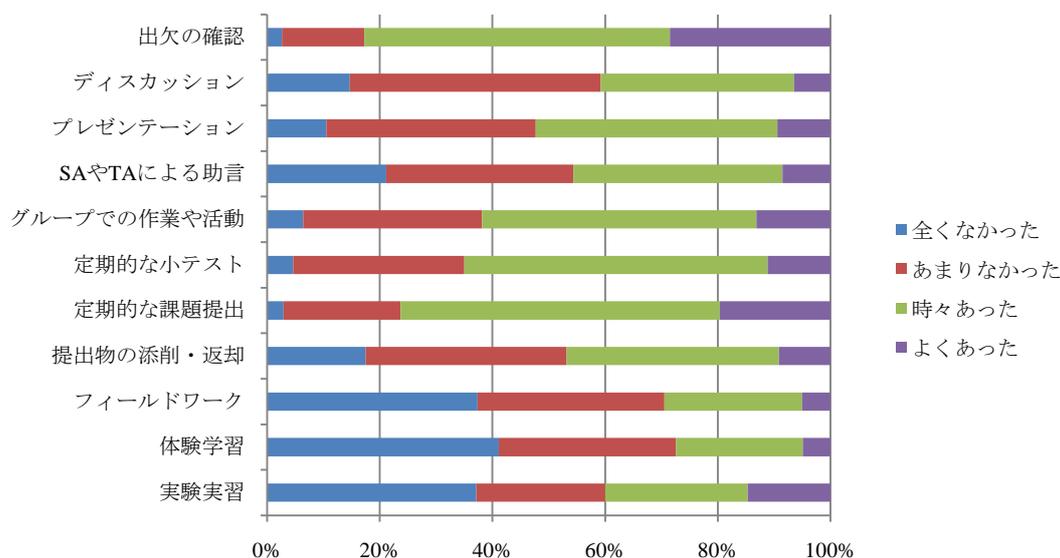


Q12では学生の授業に対する取り組み状況について質問している(それぞれの取り組みについて「全くしない」から「よくする」までの4段階で、授業に対する行動を捉えている)。図4から全体の傾向を見ると、学生が授業をつまらなく感じることもあるが、ノートを取るなどの基本的な学習態度は身につけていること、そして課題提出や試験勉強は単位取得との関係もあり、それらの取り組みは行っている様子が示されている。しかし、「授業の予習や復習をする」学生は相対的に少なく、「授業内容を教員に質問する」についても、多くの学生が行っているとはいえないことが分かる。

Q13. あなたがこれまでに受講した授業で、以下の授業形態・方法が取られたものがありましたか。

Q13では、学生が受講した授業の形態・方法を質問している。この質問では各授業の形態について、そうした授業がこれまでにあったかどうかを4段階(「全くなかった」「あまりなかった」「時々あった」「よくあった」)で質問しているが、その回答を整理したものが図5である。この図からは、「出欠の確認」や「定期的な課題提出」は日常的な光景であること、「フィールドワーク」「体験学習」「実験実習」といった形態は3年次の終了時点でも4割程度の学生は経験していないといった傾向を確認できる。

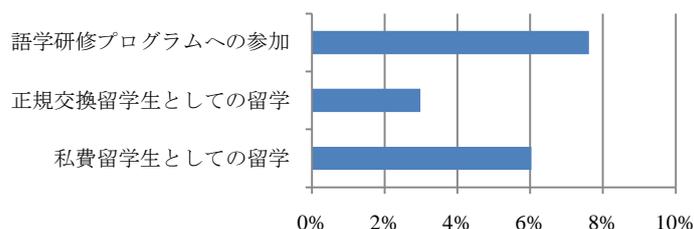
図5 授業の形態・方法 (Q13)



Q14. あなたは、大学入学後につきのような経験をしたことがありますか。

Q14 では学生の留学等の経験について質問している（図 6）。大学入学後の留学経験はごく一部の学生に限られているが（各項目を経験した学生は全体の 6～8%程度）、経験した学生は 1 年次よりもわずかに多い。また、ここで質問した 3 つのうち、どれか 1 つでも経験した割合は 9.5%であった。

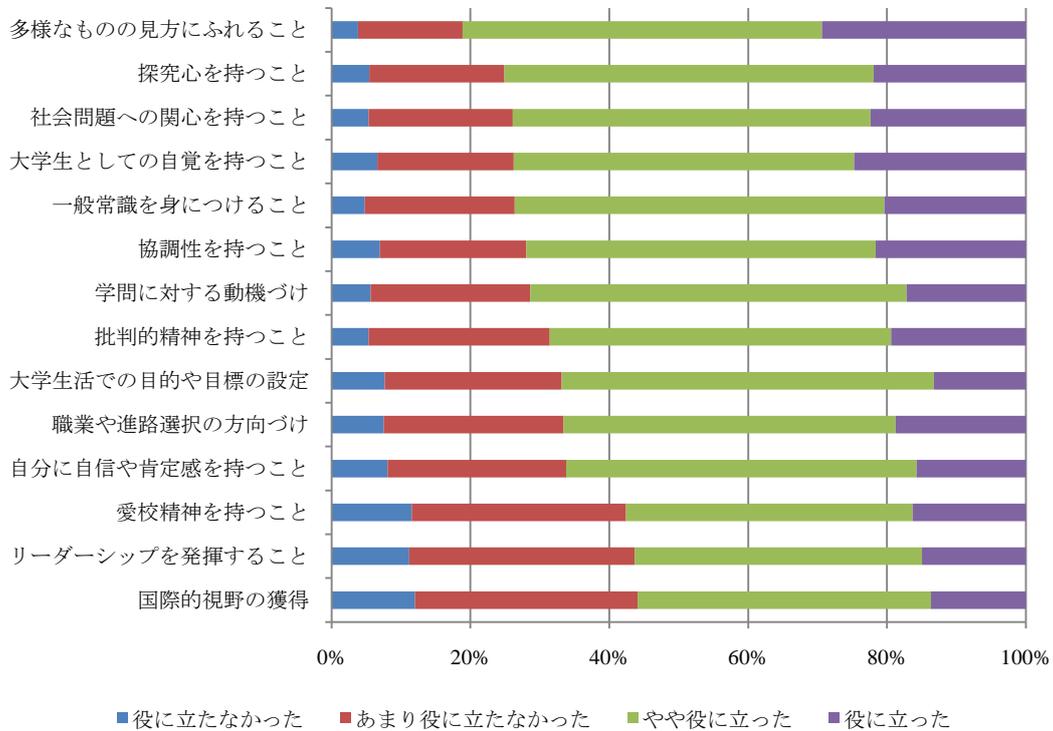
図 6 留学等の経験（Q14）



Q15. あなたにとって、本学の授業は次の項目に対してどの程度役に立ちましたか。

Q15 では、複数の項目を設定し、大学の授業がどの程度役に立ったかを質問している。図 7 では役に立った（「やや役に立った」+「役に立った」）とする割合が多い順に項目を並べているが、役に立ったと考える学生が最も多いのが「多様なものの見方に触れること」である。これは、大学で提供されるさまざまな領域の科目に触れているためであろう。続いて、「探究心をもつこと」や「社会問題への関心を持つこと」に対して、大学の授業が役に立ったとする割合が高い。一方で、「愛校精神を持つこと」、「リーダーシップを発揮すること」、「国際的視野の獲得」については、役に立たなかったと感じる学生がおよそ半数に上る。例えば、「リーダーシップを発揮すること」については、実際にグループで活動をする経験が必要だと考えられるが、大学の通常の授業ではそうした機会があまりないということだろう。

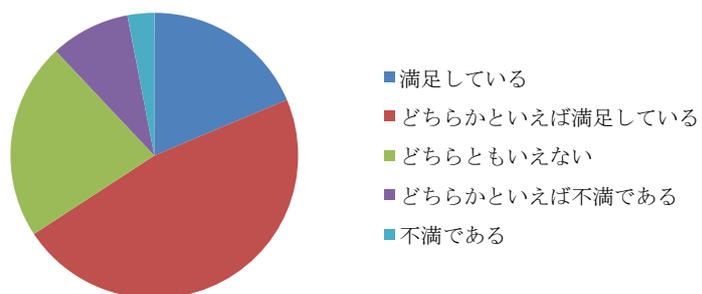
図7 授業に対する評価 (Q15)



Q16. あなたは、本学の教育全般に満足していますか、それとも不満ですか。

Q16では、本学の教育全般に対する満足度を質問している。図8のように、「どちらかといえば満足している」と回答した学生が最も多く(47.1%)、これに「どちらともいえない」(22.3%)が続く。「満足している」は18.6%であるので、全体的には満足している学生が多い。一方、不満と回答した学生は、合わせて12%程度である。

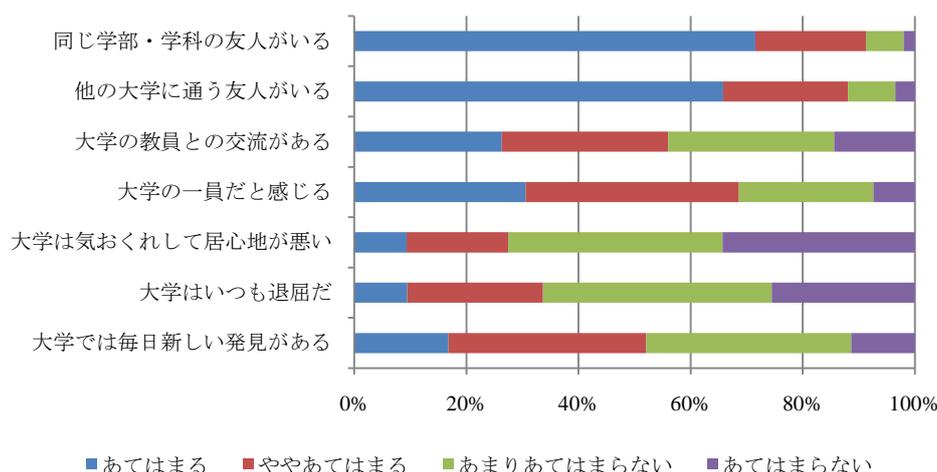
図8 教育満足度 (Q16)



Q17. あなたは、大学生活のなかで、次のことに対してどのように感じていますか。

Q17 では友人・教員とのかかわりや、大学生活で日常的に感じる意識を質問し、大学への適応状況を捉えている（図9）。これによれば、「同じ学部・学科の友人がいる」については肯定的な回答が圧倒的に多く、9割の学生が同じ所属に友人がいると感じている。教員との交流については、「あまりあてはまらない」や「あてはまらない」と回答した学生は1年次調査よりも低く、学年進行によって教員とのやり取りも増えると推察される。「大学は気おくれして居心地が悪い」（「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」の合計が72.5%）「大学はいつも退屈だ」（同:66.1%）「大学では毎日新しい発見がある」（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が52.1%）の3項目に対する回答から判断すると、およそ6〜7割の学生は大学生活を肯定的に捉えていると見られる。

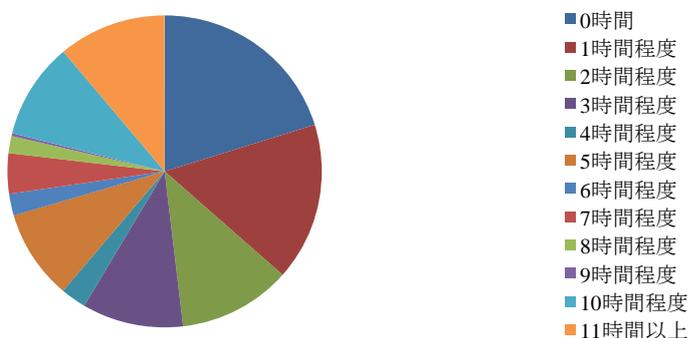
図9 大学への適応（Q17）



Q18. あなたは授業期間中、通常1週間に約何時間、授業中以外に学習活動（勉強、文章作成、読書、実験、リハーサル等）を行いましたか。

Q18 では授業期間中の授業外学習時間（1週間あたり）について質問している。1週間あたりの授業外学習時間の平均は大学全体で5.81時間であった。図10ではやや細かいが、これを1時間ごとに区分して集計している。まず、0時間と回答した者がおよそ2割となっている。ここに1時間程度と2時間程度を含めると、およそ半数の学生の学習時間が2時間程度までにとどまる。一方で、10時間以上（「10時間程度」+「11時間以上」）は合わせて2割を占める。先に見た平均学習時間にはこうした長時間の学習者の結果が大きく反映されたものと思われる。

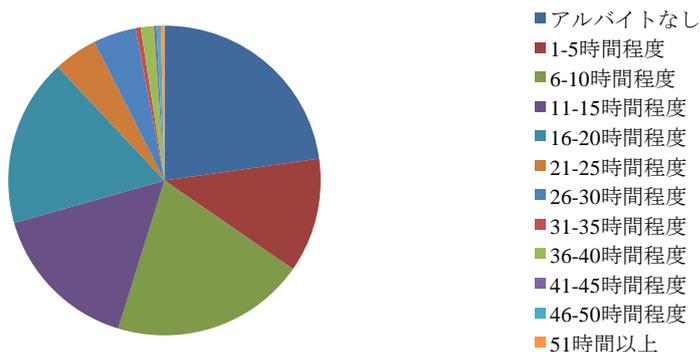
図 10 1 週間あたりの授業外学習時間 (Q18)



Q19. あなたは授業期間中に、通常 1 週間に約何時間、仕事またはアルバイトを行いましたか。

Q19 では学習時間と同様の形式で、1 週間あたりのアルバイト従事時間を質問している。全体の平均は 9.10 時間であったが、5 時間ごとに区分したものが図 11 である。全体では 2 割強の学生がアルバイトをしていない。アルバイトを行っている学生では、6 時間から 10 時間程度の学生が多い (20.1%)。これに、「16-20 時間」(17.5%) と「11-15 時間」(15.8%) が続く。

図 11 1 週間あたりのアルバイト従事時間 (Q19)

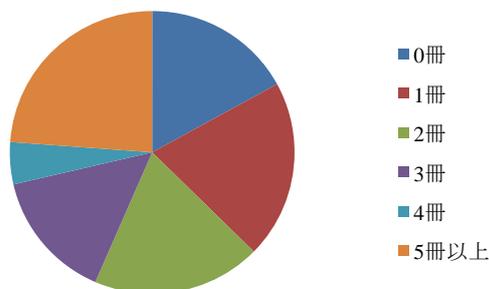


Q20. あなたは、最近 3 ヶ月で何冊ぐらい授業とは関係のない読書 (漫画、趣味・娯楽雑誌を除く) をしましたか。

Q20 では最近 3 ヶ月の学生の読書習慣について質問している。図 12 には最近 3 ヶ月間に

読んだ本の冊数を示しているが、「5冊以上」と回答した学生が最も多く全体の1/4程度を占める。また「0冊」から「3冊」についてはそれぞれ15%から20%程度であった。

図12 読んだ本の冊数 (Q20)



Q21. あなたの大学入学後の学習・生活習慣について、あてはまる番号にそれぞれ1つ〇をつけてください。

Q21では「しなかった」から「日常的にした」の4段階の回答を設定して、大学入学後の学習および生活習慣を質問している。全部で15項目の質問から構成されているが、ここでは活動内容の近いものを同一のグラフにまとめている(図13～図16)。1年次調査についても同様の集計を行ったが、傾向はほぼ同様であった。1年次調査の結果と比べ、頻度が多かったのは「図書館を利用する」であり、「日常的にした」者が10%程度増加していた。また、「新聞の政治面、経済面、国際面を読む」についても3年次生の方がより頻繁に行っていることが分かった。

図13 文献や新聞を読む (Q21)

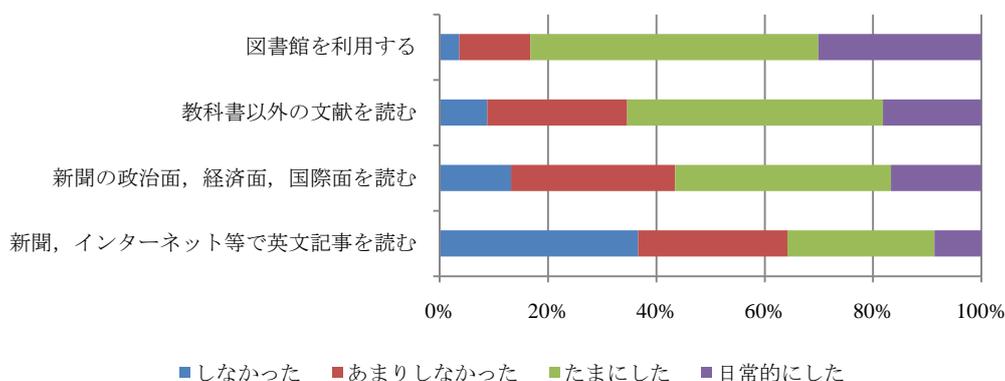


図 14 時間の管理 (Q21)

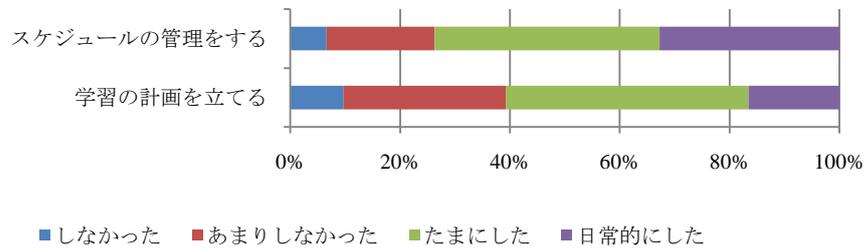


図 15 パソコンの利用状況 (Q21)

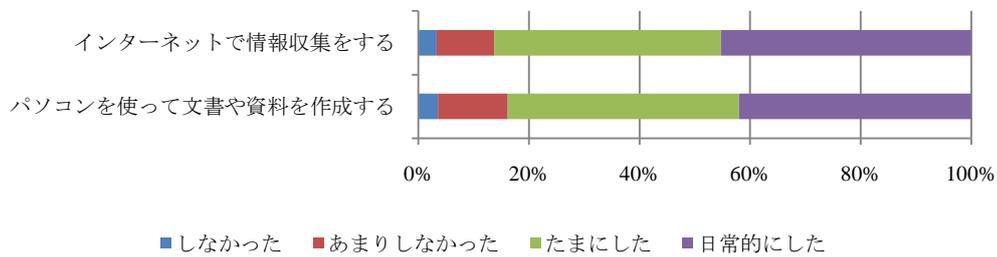
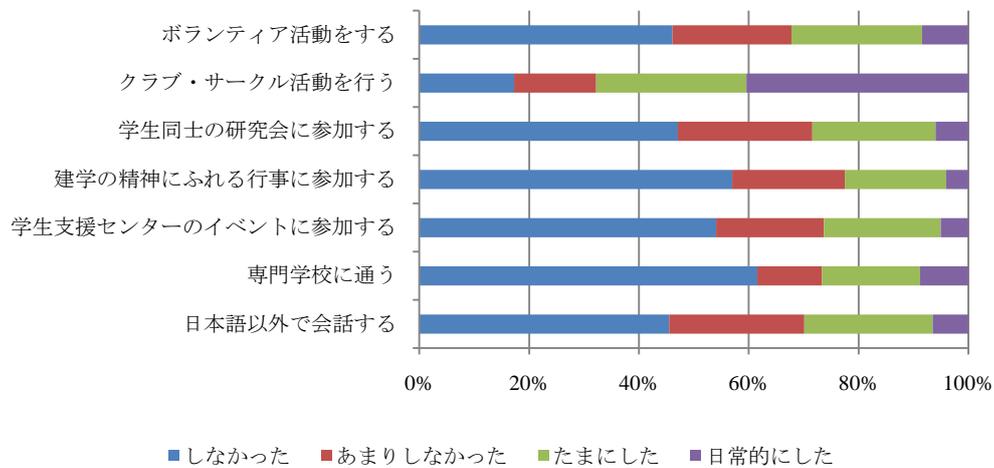


図 16 その他 (Q21)

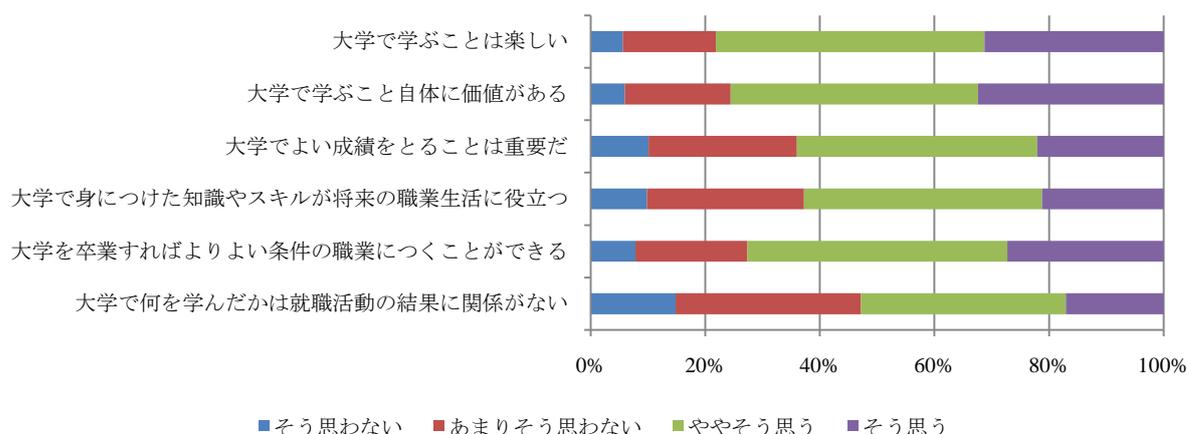


Q22. あなたは、大学での学習についてどのように考えていますか。

Q22 では学生が大学教育に対して、どのように考えているかを質問している。個々の質問項目は図 17 のとおりであるが、多くの学生は大学での学習を楽しく（「大学で学ぶことは楽しい」に「ややそう思う」と「そう思う」と回答した者の合計は 78.2%）、学ぶこと自体に価値があると考えているようである（「大学で学ぶこと自体に価値がある」：同 75.5%）。

また、大卒学歴がよりよい条件の職業と結びつくことについても多くの学生が肯定している（「大学を卒業すればよりよい条件の職業につくことができる」：同 72.7%）。これらの項目に比べれば、「大学でよい成績をとることは重要だ」（同 64.0%）や「大学で身につけた知識やスキルが将来の職業生活に役立つ」（同 62.8%）を肯定する割合はやや低い。また、大学での学習内容と就職の関係については、学習自体が就職活動の結果を左右すると考える者とそうのように考えない者がおよそ半数ずつとなっている。

図 17 大学教育の価値 (Q22)

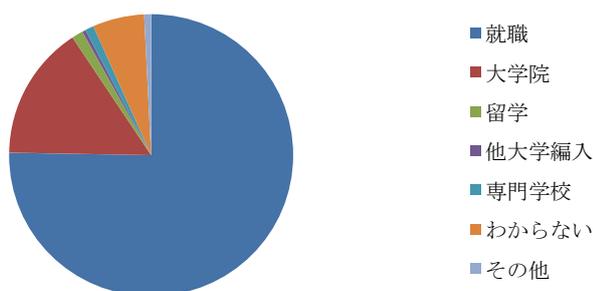


Q23. あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。

Q23 以降では、将来の進路について学生がどのように考えているかを質問している。

まず、希望する進路について示したのが図 18 である。全体では 75.3%が就職，15.4%が大学院進学と回答している。また，1 年次生調査の結果よりは少ないものの，「まだわからない」とする未定層も 5.9%確認された。

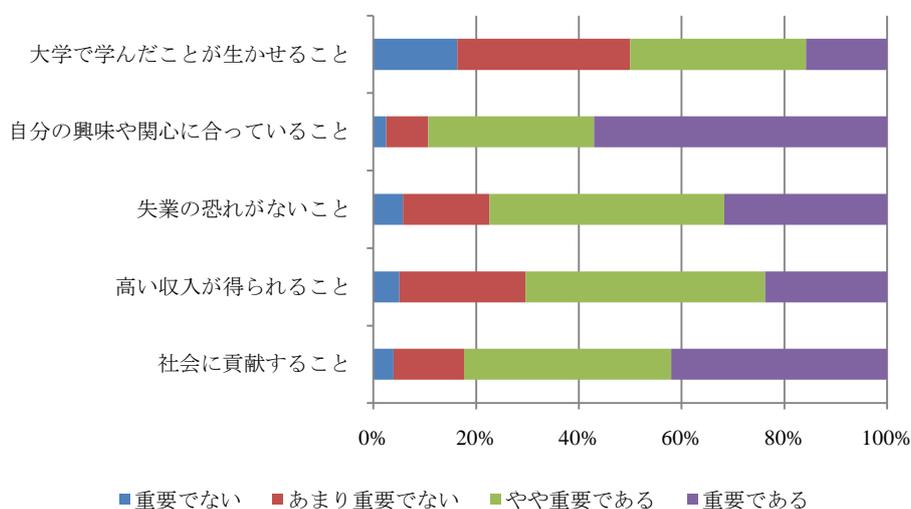
図 18 希望する進路 (Q23)



Q24. あなたが仕事や就職先を選ぶ際に、次のことはどのくらい重要ですか。

Q24 では仕事や就職先を選ぶ際にどのような点を重視するのかを質問している。図 19 に挙げた 5 項目それぞれに関して、どの程度重視するかを質問しているが、「自分の興味や関心に合っていること」が最も重視される割合が高い（「やや重要である」+「重要である」の合計は 89.5%）。次いで、「社会に貢献すること」を重視する傾向が強い（同 82.4%）。これらに比べれば、「大学で学んだことが生かせること」を重視する割合は少なく（同 50.0%）、大学での経験と職業を直接的結び付けようとする学生が多いわけではない。

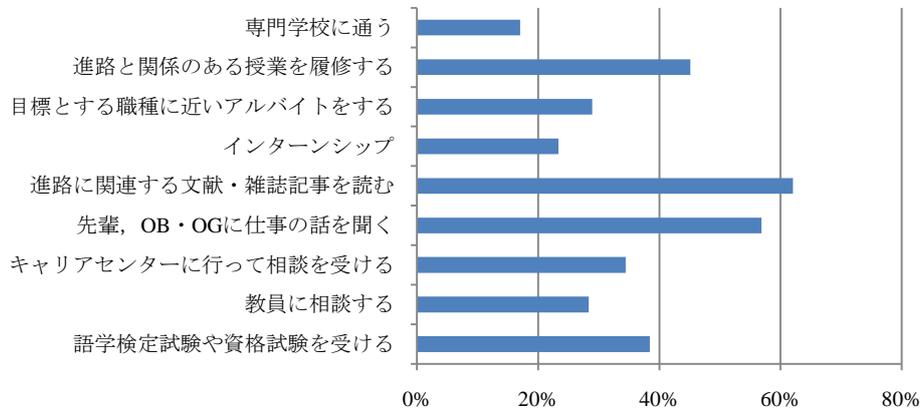
図 19 就職の際に重視する要因（Q24）



Q25. あなたは、希望する進路のためにどのような次のような活動を行いましたか。

Q25 では、希望する進路に向けた具体的な行動を行ったかどうかを質問している。図 20 では各活動項目について、学生全体の中で経験した割合を示している。最も多くの学生が行ったのが「進路に関連する文献・雑誌記事を読む」で 62.0%，それに次いで「先輩または OB・OG に仕事の話聞く」が 56.1%である。しばしは話題になる「インターンシップ」を行った学生は、23.3%であった。また、「行った」活動の個数を調べると、平均は男子 3.0、女子 3.8 と女子の方が活動の頻度が高かった。

図 20 希望する進路のための活動状況



Q26. あなたが働くこと（希望する進路）について真剣に考え始めたのはいつごろでしたか。

3年次生の終わりごろまでには、卒業後進路について何らかの希望や見通しが形成されていると思われるが、Q26ではそれぞれの学生が「働くこと（希望する進路）について真剣に考え始めた」時期についても質問している。

図 21 希望進路を考え始めた時期（3年次）

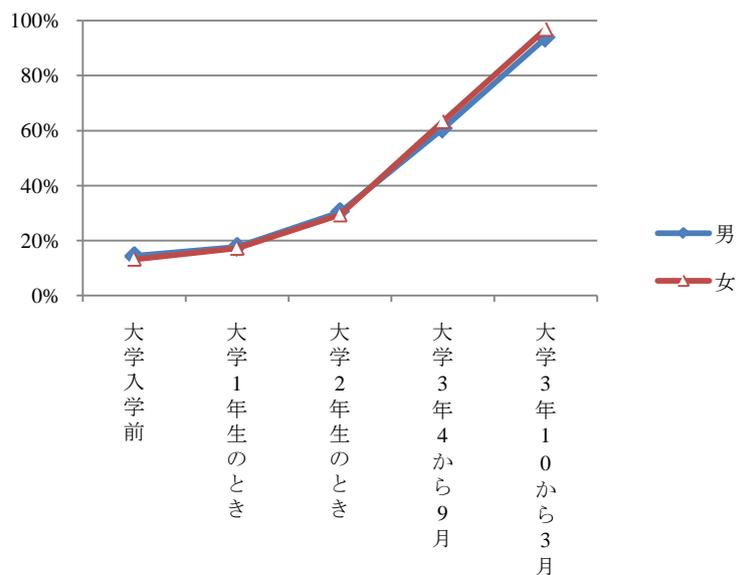


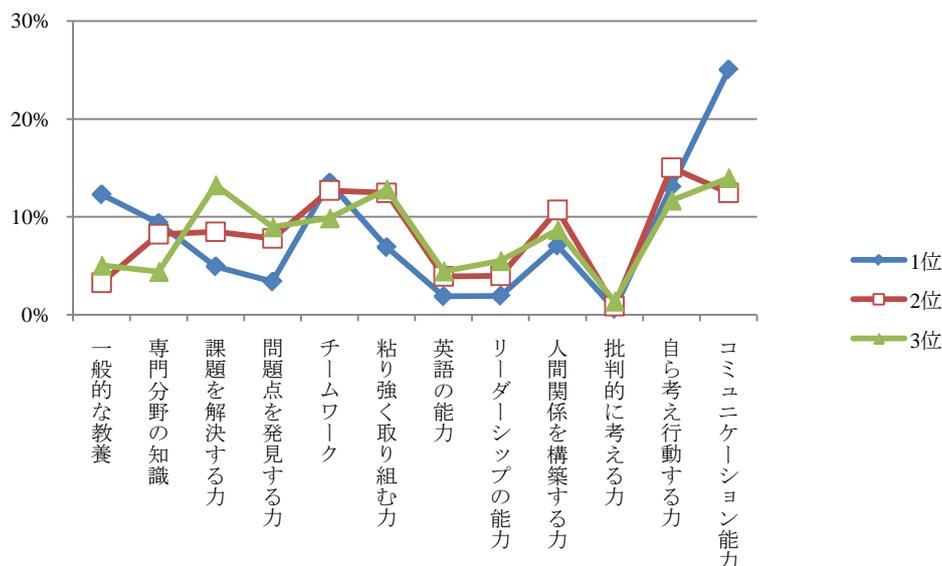
図 21 では、男女別に「働くこと（希望する進路）」を考え始めた時期を、累積%で示して

いる。つまり、それぞれの時期までに考えた学生の割合が累積されており、例えば、大学に入学するまでに考えた学生は15%程度、大学1年のときまでに考えた学生は2割程度であることが分かる。ここから、「大学入学前」と「1年生のとき」の間で割合があまり変化していないので、大学1年生の時期に考え始める学生は少ないということが見て取れる。「2年生のとき」も「1年生のとき」と比べればやや増加しているが、それほど急激な変化は見られない。これが3年生に入ってから急激に増加し、「3年生の4月から9月」までにはおよそ6割、「3年の10月から3月」までには9割を超える。この結果から、実際の就職活動が始まる時期に、多くの学生が「働くこと（希望する進路）」について「真剣に」に考え始めることが分かる。

Q27. あなたが将来めざす進路にはどのような能力が必要だと思いますか。また、その能力は大学生生活のどの場面で得られると考えていますか。

最後の Q27 では、卒業後に必要とされる就業力の観点から、大学教育の内容について考えることができる。この質問では (1) 希望する進路にはどのような能力が必要であるか、(2) その能力が大学生生活のどの場面で得られると思うか、の組み合わせについて1位から3位まで3つの回答をしてもらっている。

図 22 将来の進路に必要な能力（3年次）

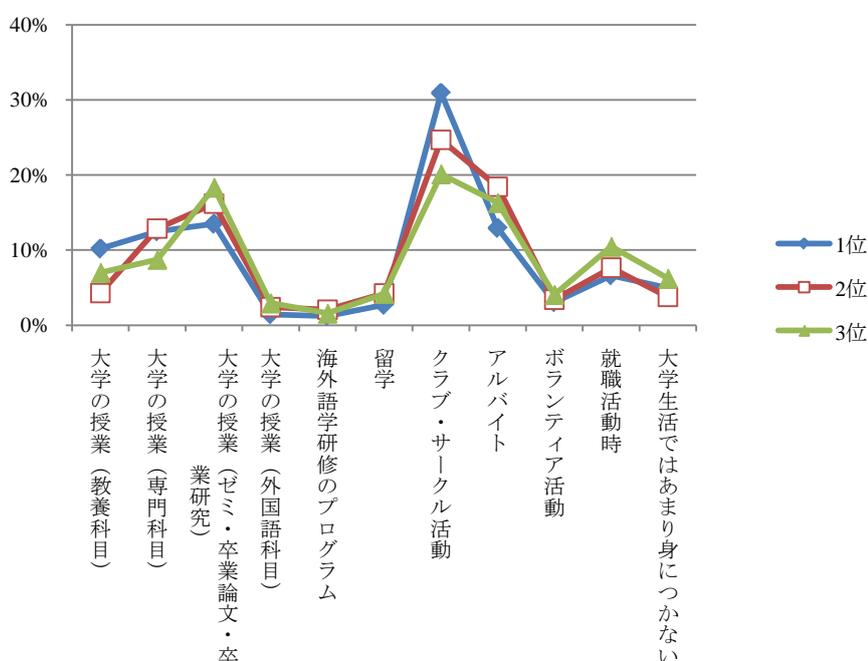


まず、(1) 卒業後の進路に必要なだと思う知識・技能について見たものが図 22 である。「コミュニケーション能力」が最も重要（1位）だと考える学生は全体の25%と突出しており、

2位以降でもこの能力の必要性が非常に強く認識されている。順位によって多少のばらつきがあるが、この他には、「自ら考え行動する力」、「チームワーク」、「粘り強く取り組む力」が上位に位置している。

続いて、(2) こうした能力がどのような場面で身につくと考えられているのかを示したのが図23である。図を見ると、1位から3位で傾向の違いはなく、「クラブ・サークル活動」が最も多く、それに「アルバイト」が続く。卒業後に必要な能力に関して、学生はどちらかといえば大学の授業よりも課外活動を重視しているようにも見えるが、「大学の授業（ゼミ・卒業論文・卒業研究）」を選択する割合も決して低いわけではなく、アルバイトと同程度となっている。

図23 必要な能力が得られる場面（3年次）



これらの2つを組み合わせ、必要な能力と得られる場面の対応関係を見たものが図24である。ここには、必要な能力ごとに、それがどのような場面で得られると考えているかを集計している。ある能力項目において「大学の授業」の割合が高ければ、その能力の育成場面として、学生が大学を重視していると考えられる。ここから、学生の大学教育に対する期待を窺うことができる。図24から必要な能力と得られる場面の対応関係を見れば、「大学の授業」の割合が高いのは、「専門分野の知識」、「一般的な教養」、「批判的に考える力」、「課題を解決する力」、「問題点を発見する力」などであることが分かる。このなかでも「専門分野の知識」は「専門科目」に、「一般的な教養」は「教養科目」に期待する割合が高い一方で、「批判的に考える力」、「課題を解決する力」、「問題点を発見する力」は「ゼミ・卒

業論文・卒業研究」に期待する割合が高くなっている。一方で、「コミュニケーション能力」や「人間関係を構築する力」など他者とのコミュニケーションに関わる項目については、「クラブ・サークル活動」や「アルバイト」の場面が重視されている。学生の意識においては、活動内容や領域に応じて異なった知識・技能の獲得が想定されているということであるが、大学教育には学問的な知識の習得やそれを通して実際に考える力を高めることが求められているといえる。

図 24 必要な能力と得られる場面の対応関係

